

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771000066		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	沖縄県糸満市字真栄里323番地		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4771000066-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな小高い丘に位置し、9名の入居者様と共用型指定認知症対応型通所介護の利用者3名様で馴染みやすい家庭的な雰囲気の中で過ごしています。
三線演奏で「もー遊び」の実践、手工芸での作品作りや動物の世話、利用者様の趣味や生きがい作りの提供や模索をしている事業所です。
健康や体力維持、気分転換を図るため体操・レクリエーションの時間を設け、新聞を紹介するのも日課となっています。
食事は3食ともホームで調理し、おいしそうなおいには利用様の五感の刺激材料です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑に囲まれた小高い丘の広い敷地に立地し、日常的に敷地内で散歩等の戸外活動を実施している。
食事は3食事業所で手作りし、昼食は調理専属の職員が魚と肉を交互に使用した献立を作っており、朝食と夕食は職員が交代で調理し利用者と一緒に食材の下ごしらえや食器洗い、ヒラヤーチーなどのおやつ作りをするなど食事を楽しむ工夫もされている。また、敷地内の畑で採れた野菜を事業所の食事に活用している。
事業所の理念は創業者である法人会長が「家庭的な場所を提供したい」との思いを込めて作成されており、職員は入職時に会長や理事長から理念の説明を受け、毎月の勤務表にも理念を明記し職員が頻繁に目にできるような工夫をしている。「あるがままを受け入れ」、「1人1人の個性を尊重しつつ家庭の延長線上での自立支援」を基に、利用者・家族の意向やニーズが把握された個別の介護計画が作成され、職員全員が理念を基に日々の支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を廊下に掲示。勤務表の中に理念を明記して職員がいつでも確認できるようにしている。	事業所の理念は開設当初に作成され現在も引き継がれている。「家庭的で馴染みと暖かみあふれる環境作り」を基に、職員には入職時に新人教育として理事長から理念が伝えられている。職員がよく目にする勤務表にも毎回理念を記載し事業所の数か所に掲示している為、職員は常に確認しながら日々の業務にあたり事業所の目指す方向が統一されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、地域の旧盆行事やハーリー大会に参加したり、幼稚園児との交流も頻繁に行っていましたが、現在は休止しています。状況を見ながら再開予定です。	コロナ禍でも、コロナ禍以前からのつきあいがある看護学校の実習生の受け入れを今年度も行なっている。また、幼稚園のこいのぼり掲揚式に声がかかったり、事業所からクリスマスプレゼントを贈る計画もしている。職員の知人で地域の人が散髪ボランティアにも訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護実習生を受け入れて、高齢の認知症の人の理解や支援の方法を学ぶサポートをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに開催してご家族にも輪番で参加の協力を頂いています。そこでの意見やアドバイスをサービス向上に活かしています。*現在は開催出来ない時は書面にて対応しています。	2ヶ月に1回、利用者・家族・行政・知見者・地域代表が参加し、今年度は感染症の状況を見ながら書面開催と招集開催を行なっている。構成員から意見の出た看護実習生の感想文を共有するなど会議内容が有意義になるように工夫している。議事録は事業所内で閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築ように取り組んでいる	運営推進会議に市担当職員の参加があり、意見・アドバイスを頂いています。	市の担当課職員が運営推進会議に参加し、利用者の健康管理や認知症の行動への解決策、身体拘束適正化委員会の開催方法などのアドバイスをもらっている。運営推進会議以外でも事業所自ら担当者と連絡を取り運営のための指導を受けるなど協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解を深めるとともに、一切の身体拘束をしないよう周知徹底しています。入居者様に対する言葉のかけ方も気をつけるようにしています。	運営推進会議を活用して2ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、議事録も作成している。職員の身体拘束についての定期的な研修も実施されており、事業所の理念でもある「あるがままを受け入れ」ることで利用者の行動を制限せず不快な思いをさせないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を実施し、管理者や職員間でも注意を払い防止に努めています。	虐待防止について、職員が外部の研修に参加した内容を事業所で他の職員にもフィードバックして学びを深めている。身体拘束をしないケアの実践同様、利用者にな不快な思いをさせず、和やかな雰囲気でも過ごせるよう配慮し、尊厳を持って慣れすぎないように意識しながら日々のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学び、日常生活自立支援事業の手続きにも対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの際に説明しています。不安要素を聞き出し、納得していただいて同意を得て契約しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議、担当者会議等の場において、意見や要望を聞いてそれらを運営に反映させています。日用品の補充時や受診時に家族と連携を密にとっています。	利用者一人ひとりにつき居室担当職員を配置し、利用者とは日頃から、月1回程度は家族と連絡を取り合っている。帰宅要求がある利用者の家族から、「散歩をさせてほしい」との要望に対して、敷地内や近くの公園まで散歩するなど個々の要望に応えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や打ち合わせで挙げた議題を管理者がまとめて、代表に報告相談しています。	毎月初めに職員会議を開催し、その場で職員から管理者や代表に意見を述べる機会が設けられている。職員から出た意見に対して、管理者は迅速に対応し、洗濯機や乾燥機の修理、リネン室の洗い場の設置など運営に関する職員意見を反映させている。また、職員が資格取得や研修が受けやすいように事業所が研修費用を負担したり、職員にあった研修の案内をしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人からの相談や要望など聞き取りしながら検討し整備向上に努めています。	年次休暇も取得できており、職員全員が定期健診が受けられるように事業所が計画している。ハラスメントの研修にも職員が参加しているが、ハラスメント防止に対する指針や規定等への記載が確認できなかった。	令和4年4月1日施行のハラスメント防止のための取り組みについて、ハラスメントに関する研修は実施されているが、指針または規定等への記載が確認できなかった為、早めの整備が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修を受ける機会の確保に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修などを通じて交流できるよう取り組みしています。コロナ禍以前は、他グループホームへ見学や、また、見学を受け入れていました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大事にし、信頼関係作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を聞き取りしながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえ、洗い物、洗濯物たたみなど出来ることはやっていたり、時にはおいしい作り方などを教えてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診、必要物品の補充などでの関りや、居室担当者は日頃から連絡を取り、家族とコミュニケーションが多くなるよう努めています。また、普段の様子を写真で知らせたりしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙のやり取りなどしやすいよう支援しています。*現在、面会はガラス越しでお願いしています。	入居前から信仰していた宗教関係の物を本人の居室に持ち込み、現在もその関わりのある人と電話や手紙のやりとりや、面会に来てもらうなどしてこれまでの関係が継続できている。他の利用者も友人や親戚が時々面会に来るなど関係が途切れないように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、入居者の性格を把握し、支え合えるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わっても、面会に行ったりしていました。*現在はコロナ禍のため出来ず。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人とコミュニケーションを取り、思いや希望を聞き取りしています。また、利用者の普段の言動から汲み取っています。	日々のケアの中で会話や行動から利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取っている。例えば、外に出たがる利用者には、一緒に屋外を散歩したり、利用者の自宅近くをドライブするなどして応えている。事業所の理念である「あるがまま」を職員が意識しており、本人の意向や思いに対してどのように対応するかも介護計画にも記載され対応の統一がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・またはケアマネージャーから情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り、日ごとの日誌確認、職員連絡ノートで情報を共有しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向、担当者また、職員の意見、気づきを出し合いプランの見直しに活かしている。普段から職員間で本人の状況などを共有しています。	介護計画は利用者の意向と本人ができる事を個別にアセスメントして作成され、介護計画に変更があれば赤字で表示してわかりやすく工夫している。利用者一人ひとりに担当職員がつき、3ヶ月に1回モニタリングを実施、日々の介護記録にも個別の介護計画を綴り、目標達成状況を毎日確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、受診の記録ノート、職員の連絡ノートを設け情報の共有をしながら見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍以前は、食べたい料理を食べに行ったり、自宅まで行ったり、野球観戦をしたりしていた。コロナ禍ですが、今年、希望で墓参りしました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域と関りが出来ていません。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の通院先を継続している。途中、車イス生活になり専用車を持たない家族に対しては送迎対応して支援しています。	入居前の通院先が遠い利用者2名については、事業所の協力医への変更を行った。6名の方は、入居前のかかりつけ医で受診を継続している。1名の方は状態の変化のため訪問医を利用している。受診については基本的に家族対応で行っており、その際の情報提供については文書を作成している。家族からの情報については聴き取りノートに記載している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用中。月に2回の訪問時に看護師に状況報告、相談し受診、また、ケアに繋がっている。24時間オンコール体制で緊急時は夜間でも相談することができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供を行っています。病院の相談員と電話・FAXにて連携を取っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の対応の説明を行い、本人や家族の希望する支援を行います。	看取りについて入居時や状態変化時に本人・家族と話し合いを行い、事業所の方針を伝達し、利用者・家族の意向を確認している。直近で話し合いの結果看取りを予定していた利用者について、準備を進めていたが、状態急変により実施できなかった。今回のプロセスを振り返り、更に看取りについての事業所の考え方を職員間で共有し実践できることを期待したい。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを基本に対応していますが、自信がない職員もいます。訪問看護との連携など、一人で対応できない時は応援を呼んで対応しています。	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを策定している。事故発生の際には、事故報告書を作成し、関係機関・運営推進委員会へ報告を行っている。又、7月には事故発生等緊急時の対応についての勉強会を開催し事故発生予防に取り組んでいる。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	避難訓練の定期に実施しています。夜間を想定した訓練も実施しています。感染症マニュアルを作成して、共有しています。	昼間・夜間の2回の災害訓練が実施され、備蓄については管理棟に必要分が保管されている。今年1月に職員と利用者がコロナ感染症に罹りクラスターが発生した。入院できなかった陽性利用者は事業所内療養となり、陽性職員が介護、陰性職員は事業所内に入れない為、買い物等後方支援にあたった。今回の教訓を活かして感染症対策マニュアルを整備した。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣いに関してはなれ合いになりがちなので、初心に戻り敬語を使うよう徹底しています。トイレ介助時は本人のプライドを損ねないような配慮をしています。	日常の介護の際に職員の気になる言葉かけや接し方について、随時指導を行っている。虐待防止研修等では、言葉の暴力について学びを深めている。研修の講師については、経験の長い前理事長に依頼している。定期的な職員ミーティングでも議題とし、日々の振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園周辺の散歩や動物の世話、庭の掃き掃除をしたい方ができるように支援していますが、業務に追われ希望に添えないときもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪ボランティアによる整髪支援、行事等では化粧しておしゃれを楽しめるように支援をしています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、洗い物、拭いたりなどを一緒にしています。また、おやつ作りで作ってもらったりしています。	食事は、3食事業所内で調理し提供している。毎日の献立、利用者の食事形態、特記事項の項目で給食日誌に記録し同じメニューが続かないように工夫している。主菜は、肉と魚を交互に提供し栄養のバランスを考慮している。利用者は、下ごしらえや洗い物等、可能な範囲で参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は主食・副食と記録しています。水分量も記録しています。個々が飲みやすいように個人ボトルを用意して、水分摂取が少ない方には声かけをしています。必要に応じてお粥や軟菜、ミキサー食の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が準備して声かけして必要に応じて介助しています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位、座位の出来ない一人の方はおむつを使用しています。夜間も個々に合わせてポータブルトイレ使用、パット交換対応、トイレ使用と様々な支援をしています。日中はほぼトイレで排泄が行えています。	排泄については、基本的にリハビリパンツとパットで対応している。利用者個々のリズムに合わせたトイレへの誘導を行い、排泄の自立支援に繋げている。立位が困難な利用者の方はおむつを使用しているが、居室内に設置したポータブルトイレを可能な範囲内で使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方の申し送りをし、本人の言動に注意しながら、食事の工夫や運動への働きかけ、便秘薬の調整もしています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時はそれぞれおしゃべりしながら入浴を楽しめるように支援していますが、時間帯は午前中となっていて希望に添えない時もあります。	入浴については、基本的に週3回を計画している。時間帯は、午前中に設定している。入浴拒否をされる方については、職員や時間を変更して誘う等の対応を行っている。入浴時に使用する石鹸等は、基本的に事業所で準備をし共用しているが、利用者によっては好みの品を持参して使用し入浴を楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の休みたい希望に沿って対応しています。就寝時間もそれぞれの就寝のタイミングに合わせて支援をしています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をコピーして内容の把握に努め、情報の共有をしています。服薬は飲み込みまで確認をして経過観察は記録しています。	利用者の服用薬についての情報提供書等は、利用者毎にファイリングし、常に最新情報を保管し、職員間の情報共有を行っている。服薬支援についてのマニュアルが作成されており、事務所に保管している。服薬時は、利用者の飲み込みまで確認し記録に残している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事をしたり、好きな食べ物、飲み物を提供したり、カラオケで踊ったり等支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は希望にそって、行きたいところへ出かけていましたが、現在、コロナ禍のため、支援できていません。その代わりにドライブして気分転換を図っています。	敷地内が広く、天気の良い日は散歩等戸外の活動を行っている。事業所から30分程度で移動できる距離にある景勝地に出かけるミニドライブを実施している。その際には、できるだけ9名の利用者全員での外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者は家族が金銭管理を行っています。1名は小遣いを所持してコロナ禍のため買い物支援しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したり、電話をしたい方にはできるように支援をしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間作りをしています。わかりやすくするため、トイレの看板は大きくしています。	玄関とホールが一続きになっており、内外に開かれた空間になっており外来者との交流や室内にいても天気の変化等に触れることができる環境となっている。 ホールや廊下の壁には、利用者の作品や写真等が掲示されている。定期的に張り替えることにより季節感を感じ、居心地よい環境構成の工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の椅子以外にもソファを置いたり、玄関先に椅子を置いて一人になれたり、気の合う人とおしゃべりを楽しめる工夫をしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビや、鏡台、家具の設置や畳を敷いたり、家族の写真などを飾り居心地よく過ごせるよう支援しています。	各居室には、クーラー・ベッド・カーテンが整備されている。タンス等の収納家具は、持参している。使い慣れたドレッサーや仏壇や聖書等を置き、落ち着いた居室づくりに配慮している。一部フローリングに畳を敷いている部屋もあり、各利用者の状況や意向に沿った支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置、手すりの設置、目に付きやすいところに時計・カレンダーを設置しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	令和4年4月1日施行のハラスメント防止のための取り組みについて、指針または規定等への未記載であったこと。	すぐに取り組みを作成し規定等への記載をすること。	令和4年11月18日に、労働基準監督局へハラスメント防止のための取り組みを記載した就業規則を提出した。	0.5ヶ月
2	35	年に2回は避難訓練を実施しているが、時間が空く為、火災報知器を停止する順番に不安があると数名の職員の訴えがある。また、勤務の関係上、あまり実施したことのない職員もいるため、全員が年間に数回は実施出来るためにも、回数を増やす必要があるし、毎回、反省会をして、次回へ活かしていく取り組みをしたい。	年度内に1回は増やし、次回は模擬消火器の使用を訓練したい。	令和4年12月15日に、避難訓練及び模擬消火器での消火訓練を実施した。また、年度内にあと1回は実施する。	3ヶ月
3	2	コロナ禍中で、家族との面会や地域との交流が出来ずにいたが、出来る範囲での交流を継続していきたい。	①家族の面会を居室で行える。②以前から交流のある幼稚園児へプレゼントを贈呈する。③行事への家族参加の計画。④敬老会に地域の舞踊教室の方々を招き舞踊を披露していただく。	①令和4年11月初旬より家族の居室内での感染対策を講じて面会実施できている。②令和4年12月5日に幼稚園児へプレゼント贈呈を利用者代表2名で実施できた。③令和4年11月19日の合同誕生会に1名と、12月17日のクリスマス会には多数の家族の参加ができました。④9月の敬老会へ向けて、教室の先生と連絡を取る。	9ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。